

えんぽとたんぽの始発駅 里山ビオトープ二俣瀬	会 報 第 180 号	2016年7月23日 里山ビオトープ二俣瀬をつくる会 編集責任者：原谷 一誠
---------------------------	-------------	--

1. 活動報告（事務局 記）

—6月23日（木）延期になっていました二俣瀬小学校藤井先生担当3・4年生の「昭和山遊ロード二俣瀬」の野外学習案内を2名（原谷・原田）で行いました。市民センターを10時40分に出発し、パンフレット案内以外の絶滅危惧に準ずる「ケマキヤマザサ」の群生地や、天づつみに移動した「ジュンサイ」なども説明しました。何ととっても昨晩の大雨で水量の増えた清瀬峡のそれぞれの「滝」はみんな興味を大きく持ち時間の余裕がないにもかかわらず、父（トト）滝まで足を延ばし、12時丁度にセンターに到着しました。二俣瀬の児童3・4年生10名とはいえあまり地元の事を知らなかった事は、少し考えさせられました。

※1、昭和山：江戸時代初期の絵図から本来は「大迫山」と云う（児童には説明）

2、頂上の休憩机まだまだ機能有り

3、鉄塔のミサゴの巣はあるものの、子育ての気配なし

4、昨晚の大水で取水口から誘導溝約15mに土砂が流込み、通水不可であったが前田会員が修復されました。

—6月30日（木）竹材粉碎用のチップパーを美祢農林事務所より借用し、ビオトープの東屋に運搬して、仮置きしました。関根・前田・原谷会員が対応しました。

—7月1日（金）二俣瀬小学校3・4年生10名が藤井先生の引率で学習に来られました。山口県自然保護課の要請で、自然観察指導員の原谷会員が講師としてビオトープの水生生物を観察しました。観察の方法や危ない生き物の説明をして、A・B班に分かれ、A班を原谷、B班を先生とビオトープに来られていた寺本会員で担当し、網とカゴを持って水生生物を捕まえて観察しました。名前を確認して元の場所に返しました。

—7月3日（日）15名の会員と観察隊OBの下川君が参加しました。

作業内容は、①蓮田内に蔓延っているコウホネおよびカンガレイの除去、②仮置きした除去草の移動、③駐車場の草刈り（斜面）

作業前の協議内容は、次回活動日（7月16日）の段取り、次々回活動日（8月6日）の事前準備、中電ボランティア活動日の段取り

—7月6日（水）中国電力(株)山口電力所の方々が、ビオトープへボランティア活動として作業に来られました。午前の班は、須賀河内川のヨシ刈りを、午後の班は、粉碎する竹材をチップパーの処理場所まで運搬して頂きました。つくる会は、関根・原田・前田・管・原谷会員で対応しました。

—7月9日（土）6日の竹材の処理が終わりませんでしたので、臨時に活動しました。11名の参加で、竹の伐採および処理（チップパー使用）、駐車場および東屋周囲の草刈りを行いました。日差しはありませんが蒸し暑く、全員汗だくになりました。お疲れ様でした。

— 7月12日（火）チップパーを美祢農林事務所に返却しました。関根・原田・原谷会員で対応しました。

— 7月13日（水）13日朝未明の大雨により市道及び土手の崩壊 田んぼの水路に土砂が流れ込み、緊急招集をして水路内の土砂の除去しました。第一取水ゲート（井堰ではない）前後の20mに約1トン以上ありました。原田会長・吉富・渡辺・金子・原田マで緊急作業をし完了しました。

— 7月16日（土）会員12名の他、親子観察隊から10名（隊員5名、保護者5名）の参加がありました。活動内容は、①駐車場の草刈り、②遊歩道および用水路周辺の草刈り、③草原ゾーンの草刈り、④湿地帯周囲の溝上げ
普段なら、草の運搬にてこずるところですが、観察隊の応援のおかげではかどりました。

2. 今後の予定（事務局 記）

◎来訪者

— 8月7日（日）フジときららネットによるこどもエコクラブ

◎行 事

— 8月6日（土）親子自然観察隊（水棲動物観察・須賀河内川）

— 8月21日（日）維持管理・草刈り（駐車場・須賀河内川一部）

3. 来訪者の声

今月はありません。

4. 会員の声-「ビオトープと水管理作業」 （原田満洲夫 記）

稲作には必ず水が必要、これは稲作期間中であるが、ビオトープの4つのゾーンには一年を通じて必要であるし、水の管理が必要である。ビオトープは、共生空間を創って、そのおかげで何百種の生物が生き延びているのである。

その上で初夏は照葉緑樹の新芽が出る代わりに、古葉が多量に落下し、水路に流れ込む。秋には落葉樹の落ち葉がまたも流れ込む。風が吹けば枯枝と落ち葉が水路の流れを更に阻害する。

稲作が行われている期間はビオトープだけでなく当会の田圃や下流の田圃も気を使わなくてはならない。当会で使い過ぎないように又雨の降り方で常に雨には確かに気を使い水管理は大変である。

以前のビオトープの水系では、現在の3倍の水量が必要で干ばつでもない通常の気候でも水管理で隣同士のいざこざが多く発生していた。水稻栽培の衰退で、逆云えば水管理は楽になってきているものの、16年前ビオトープが入ってきたことで、管理のむつかしさを稲作体験をする会員の皆様にはぜひ知っておいてほしい。

川柳 “今日もまた 溝浚えかと 腰屈め”

※ ツバメ情報 6月22日 雛確認 7月11日・12日で3羽のツバメ巣立つ 以後我が家では、安心して勝手口より出入り可能となる。

5. 親子自然観察隊

今月は行事はありませんでしたが、16日の作業日に10名の親子が応援に来てくれました。

親子自然観察隊の感想

★月本直秀

草を一輪車で何回も運びました。疲れましたが、でも、楽しかったです。

★月本（母）

除草作業、少し雨が降りましたが、ちょうど良いぐらいの気温で良かったです。

★仲嶋（母）

こんばんは。よく車の中から畑や田んぼの畦道を草刈機で除草している風景を何気なくみていましたが、体験して改めて大変だ!そして、当たり前だがそんな手入れをしてこそ美味しいお米や、野菜が出来ている。さらに自分の体力の無さ、。一生懸命に一輪車を押す中学年の小学生に私と中2の娘は完敗しました。いつも準備や手入れをして下さる関係者の方々に感謝の一日でした。ありがとうございました。

★戸成晃大

ビオトープは広いので、草を運んでも運んでも終わらず、とても疲れしました。いつもきれいなビオトープが普通だったけど、作る会のみなさんのおかげだったんだと感謝です。ぼくよりも作る会の人達の方が体力があるなと思いました。いつもありがとうございました。

6. ビオトープ関連：「山口県の昆虫たち」（管 哲郎 記）

(7) ミズイロオナガシジミ *Antigius attilia*

鱗翅目 シジミチョウ科

クヌギ、ミズナラ、コナラ、ナラガシワなどの平地～山地の落葉広葉樹林帯に生息し、ほぼ日本全土で見られます。一定面積の樹林があれば市街地の公園でも見ることができます。成虫は5月末より7月にかけて発生しますが、活動時間は早朝と夕方になり、日中は下草や低木に静止することが多く、栗の花にも吸蜜に来ますので発見するチャンスです。

翅の表は黒色ですが、裏側は白灰色に一筋の黒条が入っており橙色の紋と2本の尾条があり、とてもきれいな小さなシジミチョウです。そっくりさんにウスイロオナガシジミがいますが、高山性であり山口県の平地ではほとんど見られません。



岡山県産



山陽小野田市産

7. 会よりの連絡事項

- 1、8月6日は新しく開校した「厚東川中学校」ボランティア活動にて手押し除草機で田んぼの草取りと、イナゴ捕りに参加されます。
- 2、田んぼの散水の間欠中止3度実施後、7月19日より無効分結阻止のため本格乾燥中（中干しと云う）22日まで行って以後通常注水します。

8. 編集後記

幼稚園の自然観察の森でのデイキャンプへ。ネムノキの花を拾いその木を見上げる。セミの抜け殻を見つけ、誰かが捕まえたセミや、コガネムシ（コフキコガネムシ）、カナブンなどに集まる子供達。斜面を転がり駆け上り虫を追いかける。又川へ出かけると土手で飛び交うオハグロトンボを追いかける。川に入っても追いかける。メダカ？網に入らない。ニナには興味なし。家には虫かごにダンゴムシ、ミミズ。いつまで虫を追いかけて自然を駆け回るのか。子供達が楽しく遊べる自然が周りにあればのびのび成長できるであろう。そしていつかこのビオトープにもと。今年はいっぱいの蕾をつけていたナツツバキの開花が気になって仕方がない梅雨明け間近の作業不参加の日のふれあいでした。

（ 松本 フデ子 記 ）